

2023年の大学卒業生 進路決定率86.5%！

前年比で1.5%増！
進学者0.2%増、就職者1.4%増

旺文社 教育情報センター 2024年1月11日

旺文社では、大学へのアンケートを基に『大学の真の実力 情報公開BOOK』を刊行している。その卒業生データを基にして2023年の卒業生の進路決定率を分析した。2023年の進路決定率は86.5%。前年の85.0%から1.5%上昇した。

◎『大学の真の実力 情報公開BOOK』（旺文社／2023年9月刊）の調査データに基づく。

◎調査データは2022年4月～2023年3月までの大学卒業生の、2023年5月1日現在の情報。

◎学部系統分類は、旺文社の分類に基づく。

◎本稿での進路区分の基準は次の通り。

- ・「進学者」＝大学院研究科、大学学部、短期大学本科、専攻科、別科へ進学した者。
- ・「就職者」＝自営業主等と無期雇用労働者の合計。

（注）本稿では、有期雇用労働者（雇用契約期間1か月以上の者）・臨時労働者（雇用契約期間1か月未満の者）は就職者に含めていない。文部科学省『学校基本調査』が示す「就職者」、旺文社『大学の真の実力 情報公開BOOK』に掲載の「就職者」とは基準が異なる。

- ・「臨床研修医」＝医学科、歯学科の卒後臨床研修医。
- ・「その他」＝「専修学校・外国の学校等入学者」「進学準備中の者、就職準備中の者、その他」「不詳・死亡の者」。

■「進路決定率」——就職率だけではわからない卒業後の進路状況を数値化！

本稿における進路決定率は、以下の式で計算した。

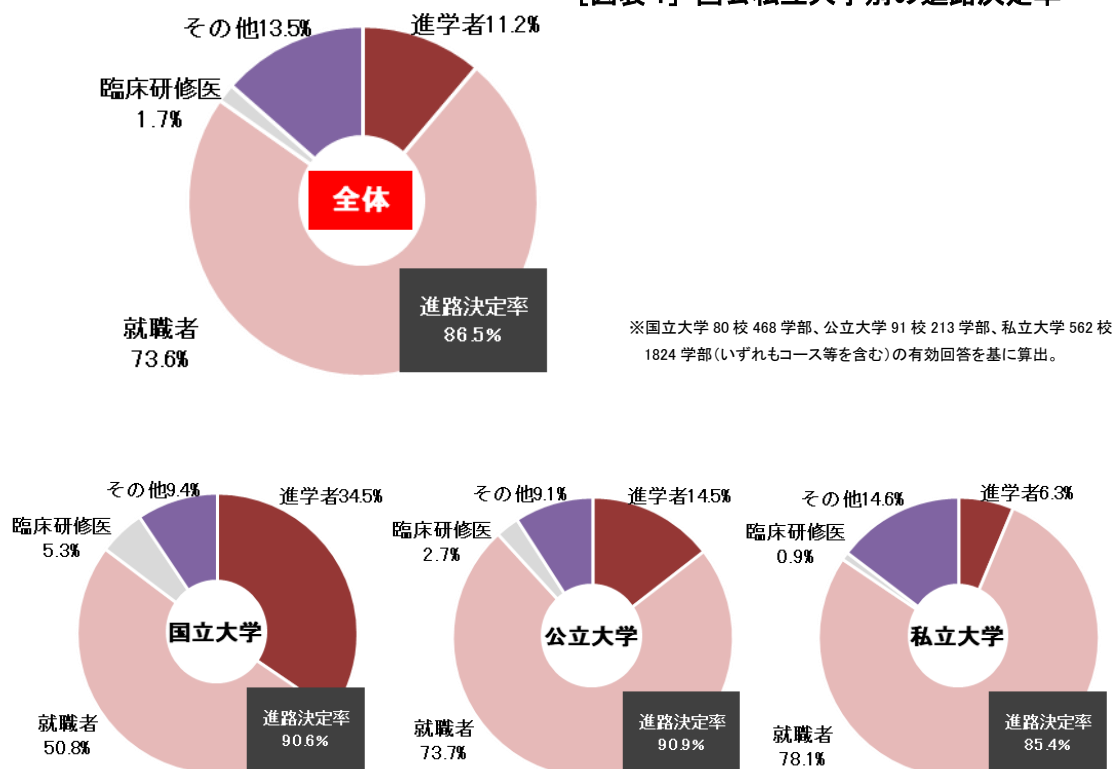
$$\text{進路決定率（\%）} = (\text{進学者数} + \text{就職者数}) \div \text{卒業生数} \times 100$$

※就職者数に臨床研修医を含む

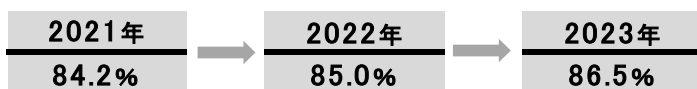
進路の決定率に関する計算式は、記事によってさまざまである。計算に使われる数値は、就職者数、就職希望者数、進学者数、卒業生数等があり、就職率を考察する記事もよく見られる。本稿では進学した者も進路が決定したとして扱い、進学者数を就職者数と合わせて計算した。就職者数には臨床研修医も含む。

本稿では、就職者とは自営業主等と無期雇用労働者が該当する。有期雇用者と臨時労働者は含めていない。また、分母は進学・就職希望者等ではなく、客観的な数字として卒業生数とした。

【図表 1】 国公立大学別の進路決定率



【図表 2】 進路決定率 直近 3 年間の推移



■進路決定率86.5%！ 前年比で1.5%上昇

2023年の進路決定率は86.5%となった。

国公立別では、国立大学の卒業生は進学者の割合が大きいことがわかる。国立大学の学生は、公立や私立と比較して、理学部系統、工学部系統、農・獣医畜産・水産学部系統が多い。これらは、他の系統と比較して進学者の割合が大きい。また、国立大学の特徴として、臨床研修医の割合も比較的大きいことも挙げられる。

公立大学は今年も決定率が国公立の中では最高だった。公立大学は看護・医療・栄養学部系統の学部が多く設置されており、その学部系統は決定率が高い。

私立大学は就職者の割合が大きい。文系の学部系統が多く、その進学率はあまり高くない。また、学部数や学生数の多さによる多様さも大きな特徴で、その他の割合が大きくなる。私立大学の学生が大きな割合を占めるので、全体の傾向は私立大学と似たようなものになる。

図表2で示したように、決定率は2021年から2022年、そして2023年と2年続けて上昇した。

■2023年は進学者、就職者ともに増

図表3は2022年と2023年の比較である。進学者は0.2ポイント増加、就職者が1.4ポイント増加、その他が1.5ポイント減である。進学者、就職者が増加する傾向は前年も同様で、2年続けてである。

【図表 3】 進路決定率 前年との比較

全体	2022年	2023年
進路決定率	85.0%	86.5%
進学者	11.0%	11.2%
就職者	72.2%	73.6%
臨床研修医	1.7%	1.7%
その他	15.0%	13.5%

■国公立は決定率90%以上の学部が多く、私立は80~90%が多い

図表4は国公立私立大学別の進路決定率ゾーン別の学部数である。国立大学は多くの学部で決定率が高い。公立大学も同様で、ほとんどの学部が80%以上の決定率だ。私立大学は進路決定率80~90%の学部が多い一方で、決定率80%未満が約4分の1を占める。

■男子は進学者の割合が大きく、女子は就職者の割合が大きい

進路の決定率を男女別に見ると(図表5)、男女間で傾向が異なることがわかる。すなわち、男子は進学者の割合が大きく、女子は就職者の割合が大きい。また、臨床研修医は男子が多い。

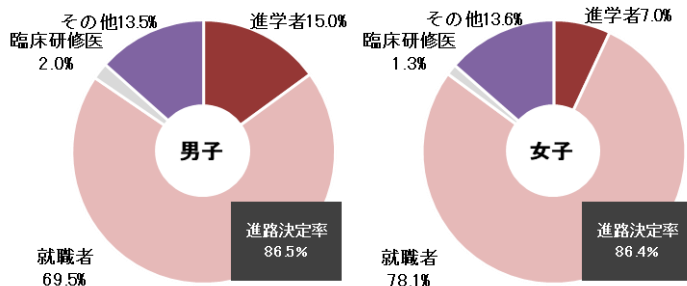
次のページの図表6は、設置者別かつ文系、理系別の決定率と、その内訳を表したグラフである。国立大学の理系は進学者が多く、半数以上の卒業生が進学である。私立大学は文系、理系ともに就職者の割合が大きい。図表6の6つのグラフを前年と比較すると、すべてで決定率が上がった。最も上昇したのは私立大学の文系で、前年の81.2%に対し、本年は83.7%で、2.5ポイントも上昇した。

【図表 4】 国公立私立大学別
進路決定率ゾーン別の学部数

進路決定率	国立大学 90.6%	公立大学 90.9%	私立大学 85.4%
90~100%	285	146	595
80~90%未満	130	51	784
70~80%未満	37	5	308
60~70%未満	10	7	85
50~60%未満	5	1	30
50%未満	1	3	22

※国立大学 80 校 468 学部、公立大学 91 校 213 学部、私立大学 562 校 1824 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。

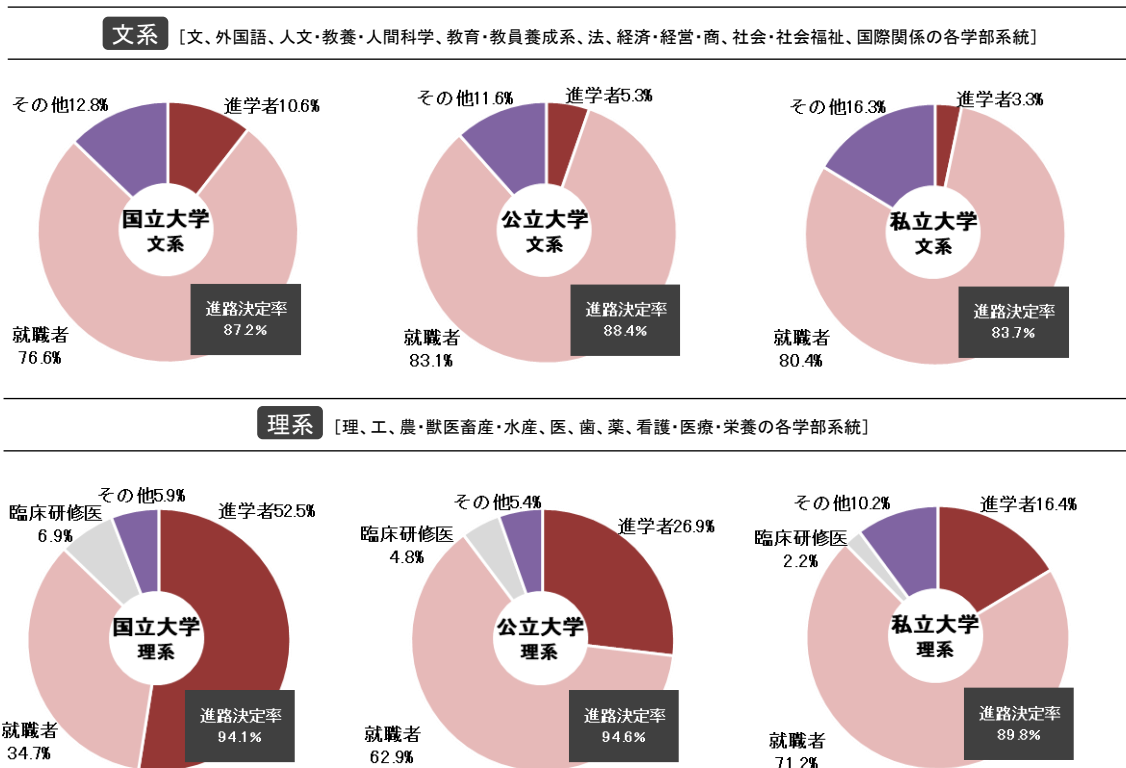
【図表 5】
男女別の進路決定率



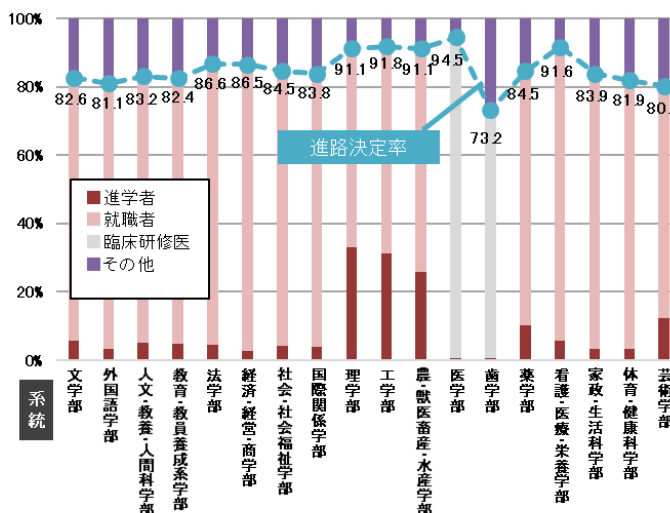
※国立大学 80 校 468 学部、公立大学 91 校 213 学部、私立大学 562 校 1824 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。

[図表 6] 国公立大学別
文系・理系の進路決定率

※国立大学 80 校 468 学部、公立大学 91 校 213 学部、私立大学 562 校 1824 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。



[図表 7]
学部系統別の進路決定率



※国立大学 80 校 468 学部、公立大学 91 校 213 学部、私立大学 562 校 1824 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。

■今年も理、工、農・獣医畜産・水産、医、看護・医療・栄養学部の決定率の高さは変わらず

進路決定率は、学部系統によって異なる傾向が見られる。毎年、文系より理系が進路決定率が高い傾向が見られ、今年も例外ではなかった。全体の決定率86.5%を上回ったのは、次ページの図表8の通り(太字の系統)。決定率が高い順に医、工、看護・医療・栄養、理、農・獣医畜産・水産、法、経済・経営・商の各系統である。また、理、工、農・獣医畜産・水産

の各系統で進学者が非常に多かったのも、前年同様である。

今年度はほぼすべての学部系統で決定率が上昇した。看護・医療・栄養学部系統が最も高まり、その上昇率は2.5ポイントである。唯一、医学部系統のみ0.4ポイント低下したが、決定率は94.5%で、全学部系統のうち、最も高い。

■進路決定率は大学によりさまざま

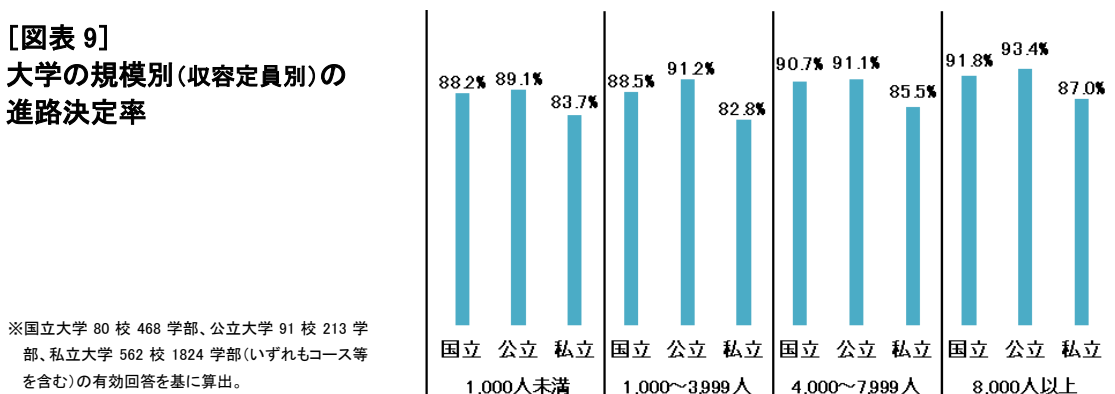
図表9は大学の規模別（収容定員別）、国公私立大学別の進路決定率である。規模の大きな大学は進路決定率が高い傾向がある。とはいえ、実情は大学によってさまざまで、規模が大きくても決定率が50%程度の大学や、逆に、規模が小さくても決定率が高い大学もある。全体の傾向の他、個々の大学を確認することも大事である。

[図表 8]
学部系統別の進路決定率 前年との比較

学部系統	2022年	2023年	前年からの増減
文学部	80.3%	82.6%	2.3ポイント
外国語学部	79.2%	81.1%	1.9ポイント
人文・教養・人間科学部	81.1%	83.2%	2.1ポイント
教育・教員養成系学部	80.5%	82.4%	1.9ポイント
法学部	84.5%	86.6%	2.1ポイント
経済・経営・商学部	84.6%	86.5%	1.9ポイント
社会・社会福祉学部	82.4%	84.5%	2.1ポイント
国際関係学部	81.9%	83.8%	1.9ポイント
理学部	89.8%	91.1%	1.3ポイント
工学部	90.5%	91.8%	1.3ポイント
農・獣医畜産・水産学部	90.3%	91.1%	0.8ポイント
医学部	94.9%	94.5%	-0.4ポイント
歯学部	73.0%	73.2%	0.2ポイント
薬学部	83.7%	84.5%	0.8ポイント
看護・医療・栄養学部	89.1%	91.6%	2.5ポイント
家政・生活科学部	82.0%	83.9%	1.9ポイント
体育・健康科学部	80.9%	81.9%	1.0ポイント
芸術学部	77.9%	80.2%	2.3ポイント

※太字は全体の決定率86.5%を上回った系統

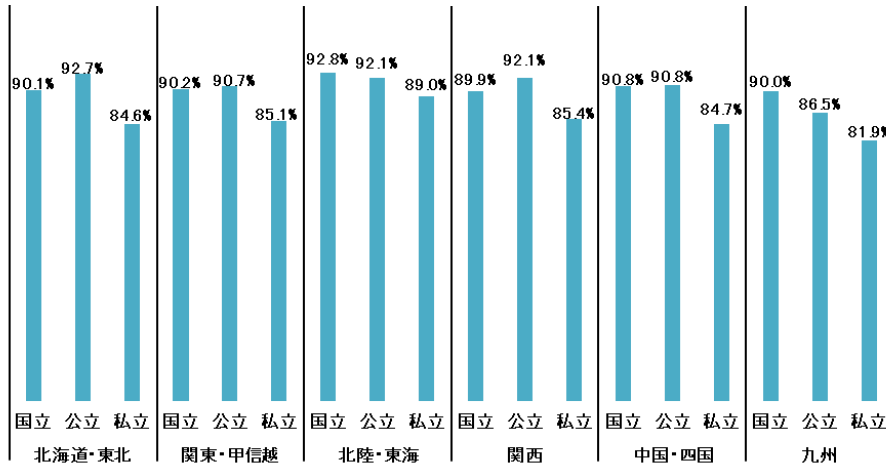
[図表 9]
大学の規模別（収容定員別）の
進路決定率



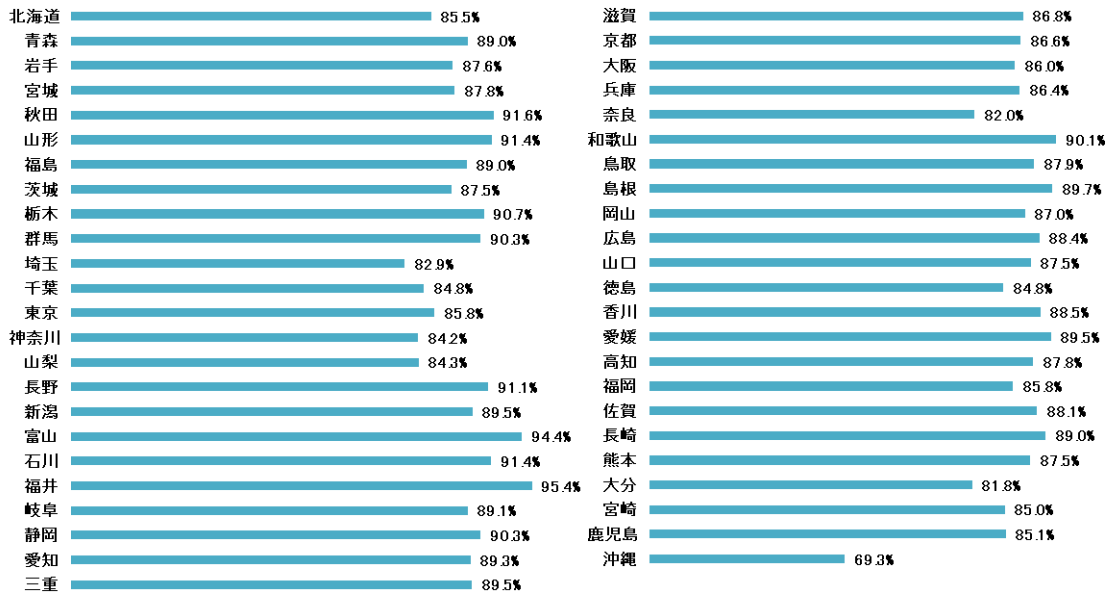
■エリア別では北陸・東海エリアが高い数値を記録

図表10と11は、エリア別と都道府県別の進路決定率である。今年も北陸・東海エリアが高い傾向は変わらなかった。最も高かったのは福井県で、以下、富山県、秋田県、山形県、石川県と続く。エリアによって盛んな産業や、大学の特徴が異なるので、個々の大学については各大学のホームページや弊誌『大学の真の実力 情報公開 BOOK』を参照されたい。

[図表 10]
エリア別の進路決定率



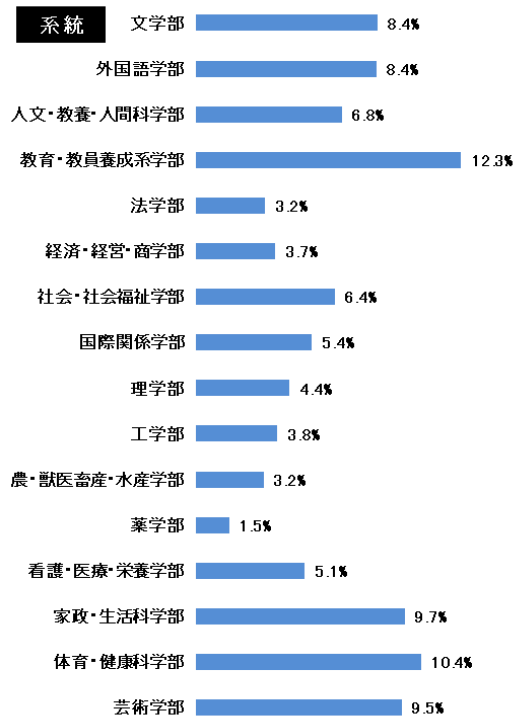
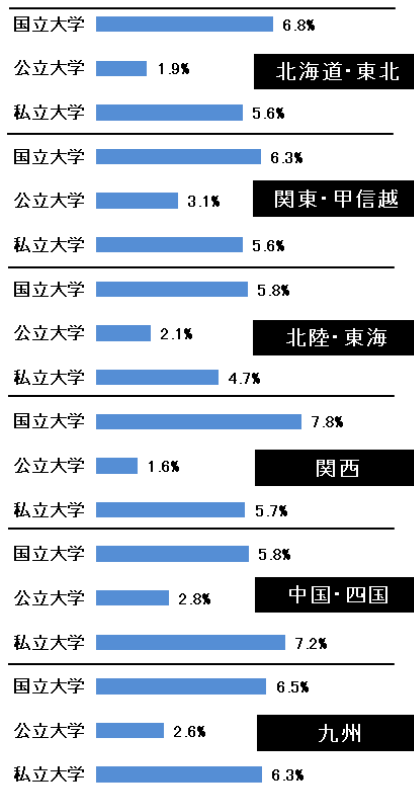
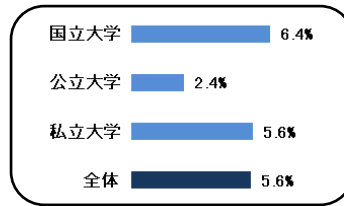
[図表 11] 都道府県別の進路決定率



※図表 10、11 は国立大学 80 校 468 学部、公立大学 91 校 213 学部、私立大学 562 校 1824 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。大学の本部所在地で集計。

[図表 12]
有期雇用労働、臨時労働に就いた者の割合
(国公立大学別／エリア別／学部系統別)

※(有期雇用+臨時労働)÷
 (自営業+無期雇用+有期雇用+臨時労働)で算出。



※国立大学 80 校 468 学部、公立大学 91 校 213 学部、私立大学 562 校 1824 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。

■有期雇用労働・臨時労働に就いた者は、前年比で0.3 ㇿ低下

図表12は、有期雇用労働・臨時労働に就いた者の割合である。全体では前年の5.9%から5.6%と、やや減少した。

設置者別では、公立大学で有期・臨時の割合が小さかった。

学部系統に注目すると、教育・教員養成系学部系統は有期・臨時の割合が大きい。臨時教員としての採用があることがうかがえる。次に有期・臨時の割合が大きかったのは体育・健康科学部である。一方、有期・臨時の割合が小さかったのは薬学部系統だった。

全体をまとめると、進学者が微増、そして就職者が前年より大きく増加した。昨今、労働市場では人手不足と言われるが、本稿でもその論調に沿った結果となった。

(2024.1 今村)